文化

新 なら 民俗通信 1

鹿谷　勲

大和の民俗文化を探る

多種多岐の研究継続

奈良新聞連載の「なら民俗通信」は、1990（平成2）年3月10日付の「東山中（ひがしさんちゅう）の十九夜講」（竹鼻廣三氏）で始まった。30年余りを経て、先月9月4日付の「相撲のはなし」（西村博美氏）で300回を迎えた。これまで連載していただいた奈良新聞社と、歴代の担当者の方々に、篤くお礼を申し上げたい。これを契機に、これまでの経緯と活動を振り返ってみたい。

▼1989年6月「奈良の民俗を語る会」スタート

「なら民俗通信」の連載には、実は3つの背景があった。

掲載が始まった前年の1989（平成元）年当時、筆者は奈良県教育委員会文化財保存課の民俗文化財担当者だった。ある日、奈良市教育委員会文化財課の岩坂七雄氏の運転する車に同乗して、柳生方面に出張している時だったと思う。「民俗文化の調査保存の業務に携わって得た民俗情報を、少しでも広く県民に伝えるためにも、開かれた勉強会ができないだろうか」と、岩坂氏に相談を持ちかけた。

幸いに同意を得ることができたので、若い頃から豊富な民俗調査の経験を持ち、当時同じ県教委社会教育課に勤務していた尾田正幸氏にも協力をお願いし、さらに県立民俗博物館（大和郡山市）の協力も得て、同年6月3日に同博物館で「奈良の民俗を語る会」の第1回会合を開くことができた。

▼例会続け、会報発行から奈良新聞に連載へ

当日は、尾田正幸氏から「東山中の正月行事」のテーマで話題提供がされ、議論が弾んだ。尾田氏にこの会の世話人代表をお願いして、私と岩坂氏が運営事務を行うことになったが、のちに吉野町歴史資料館の池田淳氏も世話人に加わってくれた。

こうして始めの半年間ほどは毎月、のちには隔月で小規模な例会を行い、いろいろな方々に関心を抱く話をしてもらい、手作りの会報も作った。

その頃、例会をのぞいてくれた奈良新聞社の小池重三記者（現奈良テレビ放送・報道デスク）から、「例会発表の要旨を新聞に掲載して、県民にも情報提供しては」と勧めていただいた。これが奈良新聞に「なら民俗通信」が掲載されるきっかけだった。

▼1992年5月に「奈良民俗談話会」が発会

活動を続けて3年目ほど経った1992年5月には、「語る会」を発展的に解消して「奈良民俗談話会」とし、発会記念例会として柳田国男に直接教えを受けた平山敏治郎先生に「奈良の民俗学に期待する」というお話をしていただいた。

同時に岩井宏實、栢木喜一、岸田定雄、野本寛一、松本俊吉の各先生方からも激励の言葉をいただいた。本格的な研究団体といえるほどのものではないが、勉強会、情報交換の会として活動を続けてきた。

談話会は軌道に乗ったものの、世話人の互いの仕事も忙しくなり、例会や会報の事務負担などで次第に運営が苦しくなり、発会10年を経て例会47回、会報42号を出した1999年9月で、談話会は残念ながら、自然休会になってしまった。

▼2013年6月、「奈良民俗文化研究所」が始動

「談話会」休止後も、いろいろな方に依頼して新聞連載だけは、かろうじて続けてきた。そのまま「なら民俗通信」だけが生き残っていたが、筆者が県立民俗博物館を最後に定年退職したのを契機に新たな活動をしたいと考えた。

これまでの「奈良の民俗を語る会」や「奈良民俗談話会」の精神を引き継いで、知人などの賛同を得て2013年6月に「奈良民俗文化研究所」を立ち上げた。

研究員は実質6人で、その活動の一環として、研究員がそれぞれのテーマで日本の民俗に関わる古典を選び、その朗読と解説を行う公開講座「日本の民俗をきく」を大和民俗公園の民家をはじめ、県下の町家や寺院などで、これまで27回開催してきた。今年で7年目となるが、現在の新型コロナウイルスの流行に伴い、3月以来、活動は中断している。

▼「新なら民俗通信」として再スタート

県内の民俗文化は多種多岐にわたり、いまだ意識に上っていない分野や事象が多くある。さまざまな視点で奈良県の庶民の生活文化に深い関心を寄せ、独自の調査研究を続けている多くの人がいる。急激な時代の変化で、人々の意識も、集落や家族も急速に変化している。それらの意味を確かめながら、将来に生かせるものは、丁寧に受け継いでいく作業が必要不可欠である。

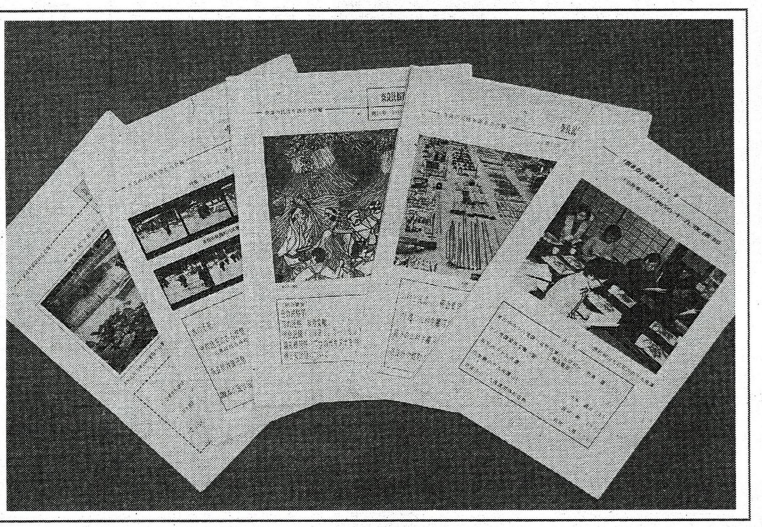
コロナウイルスが、人々のつながりや、そのためのさまざまな仕組みを根絶やしにしようとしている今、民俗文化のあり方と、その継続が大きな問題となっている。

このような時期に「新なら民俗通信」の掲載をご了解をいただいたので、新たな視点も含めて奈良県の庶民の生活文化の意味を改めて探っていきたい、と考えている。奈良県の民俗文化の豊かさと独自性を認識しながら、そのことがこれからの奈良県のあり方を考えることに繋（つな）がれば、と念じている。

※「なら民俗通信」300回分の目録は、「なみんけん」のHPで御覧いただけます。

（しかたに・いさお＝奈良民俗文化研究所代表）

＝次回は11月6日付＝



「奈良の民俗を語る会」と「奈良民俗談話会」の頃の会報